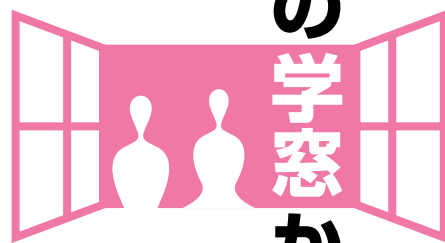


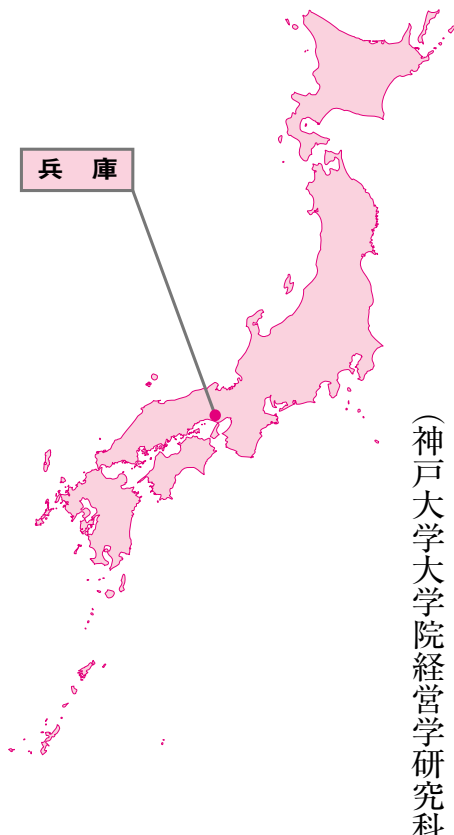
## 各地の学窓から



## その地に根付き、 ワールドクラスの 存在になる

### 金井壽宏

(神戸大学大学院経営学研究科教授)



常々、日本にはこんないろいろな地域があつて、それぞれの地域特性、土地柄があるのだから、個性が場所ごとで生きている社会なら、もつといいのにと、思うことがある。そのことで、いちばんわたくしが気にかけていること

は、地域にしっかり雇用があることだ。そのためには、地域にしっかりとしたその土地ならではの産業基盤と、その土地の住むところ、働くところとしての魅力だ。かつて、ハーバード・ビジネス・ス

クルのロザベス・カンター教授は、住む地に根付きながら、ワールドクラスの仕事をすると注目した。とりつかれたように(そして、疲れながら)世界中を無理してかけずりながら、世界をまたにかけてはいても、世界レベルの仕事をしていないひとに対して、地域に根付いているまま、その場所を愛で、そこに住むことを楽しんでながら、世界レベルの仕事をしているひとたちがいる。そのようなひとのことを、彼女は、「ワールドクラス」と名づけた。そのための調査として、

お膝元のボストンを含む全米各地でワークシヨップをおこなった。各地で地元のひとつに集まってもらい、「この地に立地していて溶け込んでいて世界レベルの競争力をもっているものはないですか」というグループ討議課題を与えて、議論してもらった。ボストンなら、コンサルティング会社のADL(アーサー・D・リトル)も、(調査当時なら)メーカーではDEC(デジタル・イクワイプメント社)も、美術館ならボストン・ミュージアム・オブ・フライン・アーツも、さらにいえば、大学では、ハーバード大学もMIT(マサチューセッツ工科大学)も、音楽学校ならバークレー音楽院も、それぞれにボストンの地に長らく存在し、地元

に溶け込み、地元のひとつに愛され、世界的に通用する魅力や競争力をもっているのだ。大学が四〇校以上もある街なので、全米から、また世界中から学生を引き寄せるが、ここで学生時代数年すごしたあと、「気に入ったこの街ボストンが!」と言えば、ニューヨークにいかなくても、このご当地に魅力ある雇用主となる組織が多数存在する。わたしがMITにいたときに博士論文の調査のためにインタビューした企業家は、「ニューヨークにあるものでボストンにないものはない。しかし、街はもつとコンパクトでわたしには住みやすく、最高だ」と言っていた。

神戸にいたので、神戸と名のつくものはすべて大切にしたいと思う。コープ神戸も、(ロックフィールドの)神戸コロッケも、神戸大学も、(固有名詞に神戸は付かなくても)地元の勇、ワールドやアシックス、また、世界レベルの会社でその日本でのヘッドクォーターを神戸に立地させているP&G、イーライ・リリー、ネスレの存在をうれしく、また誇りに思う。

街が魅力あるから、国際的だから、初代GM(ゼネラル・マネジャー)が、神戸の地を選んだというリリー。他のところに生まれたひとを観光で引き寄せるぐらいの魅力が街にあり、その街の魅力が学生を引き寄せ、雇用を生み出し、いい大学や雇用があるから、また、街に住むところ、働くところとして、魅力のあるところになる。そのような善循環をまたまた、もつと強力に取り戻したいといったら、時代錯誤だろうか。

金井壽宏(かない・としひろ)

経営学専攻。代表的著書に、『変革型ミドルの探求』『ニューウェーブ・マネジメント』『企業者ネットワーキングの世界』『創造するミドル』(共著)『経営組織』などがある。

## 私のこの一冊



## 『谷崎潤一郎全集 痴人の愛・小さな王国』

谷崎潤一郎著

中央公論社（1958年発行）

あれは昭和三三年ごろだったと思う。中学を卒業して東芝小向工場の養成所に入ったのが昭和三二年。だから一六歳ということになるが、趣味といえば読書しかなかったので毎日日本屋通いをしながら手にしたのがこの谷崎潤一郎全集であった。全集は三〇巻からなり、順次発売されていく方式で、通勤の電車の中で読むのにちょうど良い大きさが魅力だった。

その全集で最初に購入したのが、巻数は記憶にないが『痴人の愛』である。もちろん小学生、中学生時代を通して「ませて」いたので、巷間言われていた『痴人の愛』の性的描写に興味を抱いたのも事実であったが、読んでいくうちに何か違う気持ちになっていく自分を知ることになる。社会的にもそれなりの地位と収入を得ている中年の男性が、自分の子供みたいな娘

に溺れていく、それが作者の意図でなくても読んでいる私にはそこが強烈な印象として刻みこまれていく。これが人間の「弱さ」「醜さ」と呼ばれるものなのか。どんな立派な人であっても、人というものはさまざまに「弱さ」をもっているのではないのか。他人から範として尊敬されている人であっても、表面には見えない内実に「弱さ」や「醜さ」をもっている。だから人間なのだ。それが人間なのだ。

また、その弱さや醜さを認めたくなくて、自分自身でどう自制していけばよいのかが人生なのではないか。もちろんその当時は、このようにはつきりと自覚したわけではなく、漠然とそう感じていただけであるが、その思いが「人間」そのものの存在や心理に対する強烈な興味になっていったので、その後の本は、仕事に必要な経済や社会問題などとあわせてその種のテーマ本が多くなる。

全集の第六巻に『小さな王国』という短編が掲載されている。ある小学校のクラスで、餓鬼大将が自前の紙幣を発行して共産主義国家をつくる。ついには監督すべき担任までもが、その薄給のためにミルク代欲しさに仲間に入ってしまうという物語だが、組織のために人間がゆがめられていく様が淡々

と描かれている。当時日本社会にまだ羽振りを聞かせていた共産主義が、いかに幻想であったかを如実に描いたもので、私自身の思想形成に大いに役立った話を付記しておきたい。



## 鈴木勝利

(すずき・かつし)

金属労協議長

## Profile

1942年、神奈川県生まれ。57年、東芝入社。東芝労組書記長、電機労連（現在の電機連合）書記長などを経て、96年電機連合委員長。2001年より現職。

# BOOK新刊ピックアップ



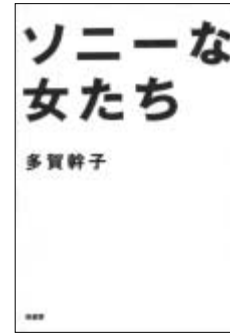
『家族革命』  
清水浩昭・森謙二・岩上真珠・山田昌弘編  
(弘文堂、本体2,000円)

家族というのは、考えてみれば不思議で理不尽なものである。人の人生は、その人がどの家族に生れ落ちるかによって基本的な部分は決定されてしまうのではないだろうか。家族に反発する場合であっても、その性格や能力、経済的状態も家族から引き継ぐからである。その家族が革命的に変化しているという。家族の中の個人の自由度が高まり(=家族の個人化)、ライフコースも多様化している(=家族のライフスタイル化)。17人の執筆者の多様な論文は、あまりに身近なために「灯台下暗し」の感のある家族を見つめ直す契機を提供している。



『語りつぎたいこと——年女子労働の現場から』  
塩沢美代子 著  
(ドメス出版、本体2,200円)

敗戦から59年が経過した。戦後の労働運動の高揚期(混乱期?)はとうの昔のこととなり、労使関係は安定期(衰退期?)を謳歌している。今後この安定期が持続するのか、雇用形態の多様化や新しい働き方に触発されて新たな労使関係が形成されるのかは、浅学非才の筆者にはとやむを得ない見通せない。余談はさておき、本書からは、戦後繊維労働組合運動を、会議室の中ではなく、現場で全身でになってきた著者の誠実な人柄がにじみ出ている。しかし、著者も懸念しているように、戦後運動は、本当に歴史として学び続けられているのだろうか。



『ソニーな女たち』  
多賀幹子 著  
(柏書房、本体1,300円)

スーパーウーマンが脚光を浴びる一方で、高学歴女性の家庭退避も話題に上っている。均等法施行から20年、女性の選択肢は増えたとはいえ、いまなお、男性社会の中で、グラスシーリングやあからさまな壁に悩んでいる女性が多い。フェミニストでなくとも心痛むことである。しかし、本書に登場する女性は、このような状況の中でも、まぶしいくらいにひたすらに前向きで挑戦的(ソニー的)である。固有名詞を冠されない一般的な女性が、ごく普通の職場でもまぶしく光輝く時代が1日でも早く到来することを願わずにはいられなくさせている。

## 労働図書館／資料センター受け入れ図書

(2004年5月に当機構資料センターが収蔵したおもな図書)

- 平成15年版 数字で見る雇用の動き／厚生労働省大臣官庁統計情報部(厚生労働省大臣官庁統計情報部・本体価格4,000円)
- 平成16年我が国の人口動態／厚生労働省大臣官庁統計情報部(厚生統計協会・本体価格1,200円)
- 第2回 21世紀出生児縦断調査／厚生労働省大臣官庁統計情報部(厚生労働省大臣官庁統計情報部)
- 日本国勢調査 2004/05版／矢野恒太記念会(矢野恒太記念会・本体価格2,524円)
- 産業と労働のニューストーリー／久野国夫(法律文化社・本体価格2,500円)
- 労働の供給制約と日本経済／水野野夫・小野旭(原書房・本体価格3,500円)
- 韓国の労働者／ハーゲン・クワ(御茶ノ水書房・本体価格4,500円)
- 労働者問題とキリスト教／W.E.フォン・ケテラー(晃洋書房・本体価格2,600円)
- 社会移動の歴史社会学／佐藤(拉来)香(東洋館出版社・本体価格5,300円)
- 現代若者の就業行動／河野員博(学文社・本体価格2,400円)
- 19世紀ハル社会史／赤司道和(北海道大学図書刊行会・本体価格4,500円)
- 労働問題のしおり 平成15年度／厚生労働省(厚生労働省)
- 現代社会論【新版】／古城利明・矢澤次郎(有斐閣・本体価格1,900円)
- 情報技術革新の経済効果／篠 彰彦(日本評論社・本体価格3,300円)
- 足で見た筑豊／金光烈(明石書店・本体価格4,800円)
- 労働者が闘う時／ブルー・ラミレス(関西大学出版部・本体価格3,500円)
- 日本の雇用政策／丸谷肇(いんば書房・本体価格2,000円)
- 現代の人口問題／黒田俊夫・大淵寛(原書房・本体価格3,155円)
- 生存と死亡の人口学／小林和子・大淵寛(原書房・本体価格3,155円)
- 人口学の現状とフロンティア／岡田實・大淵寛(原書房・本体価格3,500円)
- 人口変動と家族／阿藤誠・兼清弘之(原書房・本体価格3,200円)
- ジェンダーと人口問題／阿藤誠・早瀬保子(原書房・本体価格3,200円)
- 人口と文明のゆくえ／河野綱典・大淵寛(原書房・本体価格3,200円)
- フラット型組織の人事制度／奥林康司・平野光俊(中央経済社・本体価格2,400円)
- 【図解】部門マネジメント 人事マネジャーの仕事／吉崎文雄(日本能率協会マネジメントセンター・本体価格1,800円)
- 上海進出企業の労働管理O&A／高橋口(ジェトロ・本体価格5,000円)
- 組織行動の考え方／金井壽宏・高橋源(東洋経済新報社・本体価格2,400円)
- 【改訂】平均賃金の解説／厚生労働省労働基準局賃金時間課(労働調査会・本体価格2,381円)
- 賃金決定の手引【第2版】／笹島芳雄(日本経済新聞社・本体価格860円)
- 事例ある労働安全衛生のチェックポイント／厚生労働省労働基準局安全衛生部(新日本法規・本体価格9,450円)
- 労災保険適用事業細目の解説 平成16年版／厚生労働省労務管理課(労働新聞社・本体価格2,000円)
- 安全の指標 平成16年度／厚生労働省労働基準局(中央労働災害防止協会・本体価格560円)
- ジェンダー白書2／北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”(明石書店・本体価格1,800円)
- 女性と労働組合／高木郁朗・連合総合男女平等局(明石書店・本体価格2,300円)
- 女性のための「ケアする仕事」／斎藤弘子(彩流社・本体価格1,500円)
- ジェンダー化する社会／堀岡とし子(岩波書店・本体価格2,600円)
- 「ひとり」を支える女性たち／WWR研究会(学文社・本体価格1,600円)
- 男女共同参画社会データ集 2004年版／生活情報センター(生活情報センター・本体価格14,800円)
- フェミニスト福祉政策原論／杉本貴代(ミネルパ書房・本体価格2,500円)
- 外国人研修生の入国・在留手続Q&A／国際研修協力機構(国際研修協力機構・本体価格1,429円)
- 福祉系学生のための就職ハンドブック／川村匡由(中央法規出版・本体価格1,600円)
- じこらラボラトリー／雇用・能力開発機構のしごと館(雇用・能力開発機構 親のしごと館・本体価格3,780円)
- 新・オトナの学校 仕事常識／日本経済新聞社(日本経済新聞社・本体価格1,200円)
- 韓国で働く／笹部佳子(めこん・本体価格1,500円)
- 職業能力の評価基準【事務系職種】／中央職業能力開発協会(中央職業能力開発協会・本体価格2,300円)
- 現代の人的資源管理／岩内亮一・梶原豊(学文社・本体価格2,000円)
- 会社法の現代的課題／柴田和史・野田博(法政大学現代法研究所・本体価格2,900円)
- 労働法解体新書【補訂版】／角田邦重・山田省三(法律文化社・本体価格2,000円)
- 国立大学法人の労働関係ハンドブック／和田肇・野田進・中窪裕也(商事法務・本体価格2,800円)
- ベニック労働法【第2版】／浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子(有斐閣・本体価格1,900円)
- 新・雇用社会の法【補訂版】／菅野和夫(有斐閣・本体価格3,600円)
- 労働関係法【第4版】／小西國友・渡辺憲・中嶋士元也(有斐閣・本体価格2,700円)
- 新訂 労働基準法令総覧／労働法令協会(労働法令協会・本体価格2,600円)
- 社長！会社を守るには就業規則を見直してください／小林秀司(秀和システム・本体価格1,400円)
- 労災保険法解釈総覧／厚生労働省労働基準局(労務行政研究所・本体価格8,000円)
- わかりやすい雇用保険法の手引／厚生労働省職業安定局雇用保険課(新日本法規・本体価格9,922円)
- 社会保険法総論【第2版】／堀勝洋(東京大学出版部・本体価格4,600円)
- 社会保険読本【第3版】／堀勝洋(東洋経済新報社・本体価格2,400円)
- 現代社会保険論／田畑洋一(学文社・本体価格2,600円)
- 社会保険の基本原理と将来像／芝田英昭(法律文化社・本体価格2,300円)
- 年金改革と積極的社会保障政策／権丈善一(慶應義塾大学出版部・本体価格3,200円)
- 介護福祉のための家父学／中川英子(建邦社・本体価格2,100円)
- 企業年金ポイント解説04/05／和泉信俊(社会経済生産性本部生産性労働情報センター・本体価格1,800円)
- これが生活保護だ／尾藤廣善・松崎善良・吉永純(高管出版・本体価格2,572円)
- 東京で暮らす／松本康(東京都立大学出版部・本体価格1,495円)
- 家族革命／清水浩昭・森謙二・岩上真珠・山田昌弘(弘文堂・本体価格2,000円)
- 国民生活白書 平成16年版／内閣府(国立印刷局・本体価格1,500円)
- グローバル経営／根本孝(同文館出版・本体価格2,800円)
- 外資系企業総覧 2004年版／東洋経済新報社(東洋経済新報社・本体価格17,000円)
- コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス／貞松茂(ミネルパ書房・本体価格4,000円)
- 社会的責任投資の基礎知識／秋山をね・菱山隆二(岩波書店・本体価格700円)
- 中小企業白書 2004年版／中小企業庁(ぎょうせい・本体価格2,190円)
- 情報サービス産業白書 2004／情報サービス産業協会(コンピュータ・エージ社・本体価格5,000円)
- 日本企業の東アジア戦略／中垣昇(文眞堂・本体価格3,200円)
- 現代社会と経営組織【第3版】／佐藤一昭(学文社・本体価格3,600円)
- 企業倫理・コーポレート・ガバナンス規程集／荻野勝(中央経済社・本体価格3,800円)
- 平成15年版 世論調査年鑑／内閣府大臣官庁府政広報室(国立印刷局・本体価格10,000円)
- 2004年春 世界経済の潮流／内閣府政策統括官室(国立印刷局・本体価格860円)
- 社会運動の社会学／大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人(有斐閣・本体価格1,900円)
- 市民社会論／山口定(有斐閣・本体価格3,900円)
- 法と経済学／宍戸善一・常木淳(有斐閣・本体価格2,400円)
- 公共経営学／松行康夫・松行彬子(丸善・本体価格3,300円)
- 社会調査データと分析／鶴 尚子(早稲田大学文学部・本体価格2,000円)
- ボランティア・NPO用語事典／大阪ボランティア協会(中央法規出版・本体価格2,200円)
- データベース白書 2004／経済産業省商務情報政策局(データベース振興センター・本体価格5,500円)
- 現代日本のNPO／山内直人(全国勤労者福祉振興協会)